

【心をうしなう】

「忙」という字は、「心をうしなう」と書きます。

お恥ずかしながら、この1月、2月は、まさにこの状態でした。

(もしかしたら、以下の文、言い訳が続くかもしれませんが(*_*);)

この「まなざし」を書くのにも、子どもとの接点がなく、心が動かず。加えて、他の仕事が押し寄せてくる、そんな有様でした。

そして、痛恨の“1月掲載見送り”となってしまいました。

(ここで、再確認できたのは)心をうしなっていると、子どものおもしろさや、楽しさや、偉大さや、すごさに気づけないということです。

やっとここにきて、少しずつ通常運転になってきましたが…。心をうしなうのは、ツライです。



「おばけが でたあ〜」

「おばけが いきてる〜」

ブランコの後ろに、突然黒い物体登場。一緒におそうじをしていたAさんから飛び出た言葉です。

風で膨らんだ農業シート。突然出てきたので、私もびっくり!!



学校の中をふらふら(ぶらぶら?)していると、思わず足を止めたくなる瞬間があります。

それには、いろんな瞬間があるのですが、今回はこの写真のような時です。

整頓されている一輪車。整頓だけでなく色も揃えてありました。

ピカピカの廊下。陽の光が窓から射し込み、これでもかかっていうくらい、ピカピカに輝いています。

どちらも、いつ、誰がやってくれたのかはわかりません。しかし、このような行いが、人の心を確実に幸せにしてくれます。

このような心配りのできる子に育ってくれて、“ありがとう”